

令和6年度 第3回 いいだ未来デザイン会議 議事録

1 開会

【三浦委員長】

皆様、改めましてこんばんは。

出席予定の委員の方で、まだ出席いただいていない方もいらっしゃると思いますが、ただいまから令和6年度第3回いいだ未来デザイン会議を開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして一言申し上げます。本日は本当にご多用のところ、このようにご出席をいただきましてありがとうございます。ゴールデンウィークも終わり、あっという間に5月ということになります。前の月の12日と30日には、お忙しい中お集まりいただきましてこの会議進めさせていただいております。そういった中で、後期計画に定める基本目標や施策を検討する際に考慮すべき視点ということで、飯田市というまちづくりの方向性について「SDGs:持続可能」をコンセプトにしてグループワークを行っていただきました。事務局では配布させていただいております通り、そのまとめをしてくださっております。そのまとめを見ていただきますと、それぞれのグループでの話し合いをまとめてきたものが示されています。そしてグループ全体をまとめてくださっているものも示されております。事務局からの説明を受けて見ていただき、そこで議論を深めることを本日考えております。また、まとめたものを議論すること、もう1つ与えられた使命がございまして、この計画の計画期間も検討していただくことになっております。最初の会議での市長の挨拶でございました、その期間を4年間とするのか、それともSDGsの目標に合わせて6年とするのか、はたまた別の考え方があるのかといったところを、私達委員の意見を聞きたいと聞いておりますので、そちらの方の意見交換も併せて行っていききたいと思います。

本日はグループワークという形ではなく、このように全委員の顔が見えるような形での意見交換、全体会議形式での会議で行わせていただきたいと思います。多くの委員の意見をいただきまして、良い意見交換ができるように考えております。スムーズな進行をと思っておりますが、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速ですけれども議事に入りたいと思います。次第に基づき進めさせていただきます。まず第2回いいだ未来デザイン会議の振り返りについて事務局から報告を受けたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 第2回いいだ未来デザイン会議の振り返りについて

【三浦委員】

はい、ありがとうございました。ただいま第1回いいだ未来デザイン会議の振り返り、続きまして第2回いいだ未来デザイン会議の振り返りに加えて、事務局でこれまで私どものいいだ未来デザイン会議2回での意見交換のまとめということでたたき台を提示していただきました。本当に骨の折れる仕事だったのではないかと思います。しっかりまとめてくださっております。

本日は、このたたき台について、委員の皆様からのご意見をいただき、いただいた意見を参考として、後期計画の素案の策定に進んでいくことになります。流れをご理解いただいたうえで、たたき台のまとめ方を見ていただき、まとめる段階で抜け落ちてしまっている点やまちづくりの方向性を定めていく上で押さえておくべき重要な視点などについてご意見いただければと思います。特に、方向性を定めていく上での重要なセンテンスとしまして、方向性イメージとして4つの方向性についてのその言葉が自分たちのグループワークで話し合ってきたものが分けられるものであるか。そして、それぞれのところに●で記載されている言葉が、自分たちが話し合ってきたことを言い当てているものであるか、その下に記載されている言葉に自分たちのこれまで話し合ったものが抜け落ちていないか、整理する先が適しているか、改めて考えると別の言葉が入るのではないか、そういったご意見をお出しいただければと考えております。

事務局から説明をいただきました。どんなところからでもご意見を、また、これでいいよという事でも構いません。挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

【三浦委員】

「りんごの産地であり続ける」は、りんごだけではなく、年間を通じていろんな農産物があるということだったと思う。りんごに限定しないほうが良いかと思う。

【中田委員】

方向性2の中に、「多様な果物」がある。多様な果物ができるから起業ができるという話でもあったが、飯田市の気候でいろいろな果物ができるという話だった。「多様な果物」も「りんごの産地であり続ける」と似た話であるため、方向性1に移動させても良いのではないか。

【佐々木委員】

4つ方向性を読んでみて、「飯田だからこそ」という感じがしない。最初の尖っていた部分が削ぎ落されてしまっているような気がする。言葉遣いも、他自治体の名前で出されてもそのまま受け入れられてしまう気がする。ワークショップの1回と2回の記録を見ると、飯田市しか使えないキーワードが入っていると思う。そういったところが、SDGsに絡めるあまりに抜け落ちてしまっているような印象を受ける。方向性の言葉遣い等も、第1回目から議論になったと思うが、若者から高齢者までみんなにこのビジョンを認識して欲しいと冒頭で市長が言っていた。やはり、こどもでも大人でも飯田と絡めて入ってくるような、インパクトが全般的に欲しいと思う。長野県のプランと差がない。もっと飯田流というものをしっかり出すべきだと思うし、言葉遣いも前回の議論では「竜」などがありインパクトがあっていいなと思った。そういったところが抜け落ちてしまうのはもったいない。もっとしっかりとしたこどもにも高齢者にもわかる言葉遣いとまとめ方ができないかと思う。

【荒井委員】

計画策定でどういう文言にするかとしたときに、他自治体ではどのように書いてそれぞれの特徴を取り出しているかを比較するのが良いと思う。意見を出させていただく中でも、自分自身の計画策定に関する基礎知識が足りていないと感じている。そういう比較対象や事前にインプットできるものがあると良いと感じた。

【増田委員】

さきほどの「りんごの産地であり続ける」について、気候がどんどん暖かくなってくると、りんごが出来にくくなってしまうというところが1つ。今の小学生は、りんごの花の区別がつかどうか。そういった飯田だから当然知っていて当たり前の体験をする機会がなかなかない。以前ならば、小学生は、みんなバケツで苗を作ったような農業体験をしてきたけれど、今そういった教育がされていない。梨の袋掛けも必ず学校で行かされている時代があったがそういったものもない。Dグループでは、飯田らしさ、飯田ならではのところを、今までと同じことを繰り返していても失われていってしまうので、尖ったやり方をしていきたいという話が出た。そういうことで、シビックプライドといった話がすごく出ていた。そういった想いが込められていたので、そのカラーが全般的に出てくると良いと感じる。

【中村委員】

「飯田らしさ」という話について、飯田だけに特化した話はなかなか現実的でない。そうだとすると、飯田下伊那の中で飯田全体のデザインをしていくことが本来ではないか。

現在、飯田下伊那の人口が15万くらいという状態でどんどん減少している中で、飯田だけの色を出しましょうというのは現実的には難しい話であり、農産物も飯田市しかないものはない。飯田市はりんごの大産地ではない。市田柿だけはここしか産地はないが、はっきり言っ

て、南北の農産物がなんでもできることが飯田下伊那の特徴である。飯田下伊那全体を引っ張っていくという絵にしていくながが一番おもしろいのだろうと思う。

行政合併という話をしているのではなく、飯田が飯田下伊那を引っ張っていくとする絵を作りながら、他の行政も刺激を与えるというような絵にしてもらいたい。

【福澤委員】

佐々木さんが話された全体が丸くなってしまっている、角が取れてしまっているということについて、SDGsなどを勘案して集約するとなかなか丸くならざるを得ないところは、ジレンマを感じながら拝見した。事務局が苦勞してまとめていただき、あらゆることがいろいろと包含されている状況だというふうに感じている。

実現性という点では、乏しく実感がなくて強く感じる。ここから、尖ったワードを入れていくのか、優先順位をつけるのか、なにかを際立たせるのか、何らかの強弱をつけていかないと総花的に並べただけに見えてしまうのではないかと危惧する。

【荒井委員】

これから先、何を強調していくかは、この会議で決めて良いのか。

【澤柳企画課長】

この委員会において決めていくかについて、方向性の認識という部分で共有をさせていただくところまでと捉えている。最終的には、まちづくりの方向性に基づき、具体的にどのような取組をやっていくかを考えていく流れになっている。

まず委員の皆様と共有させていただきたいのが、飯田市を持続可能にしていくためにどのようなまちづくりの方向性が必要であるかについて、共通の認識としてお持ちいただきたい。

【中村委員】

4部門に分かれている部分がぼやあとしてしまっているという話は、基本的にはそもそもぼやあになってしまう話。この下に分野別や部門別のものが出てくると、そこにしっかりとカラーが出せるのが飯田なのだろうと思う。どこの行政でも同じような絵になってしまうのではというのは、基本的には同じものになってしまうものだと思う。4つの中に、産業、農業、生活の話などが出てきて、もう一度この4つを立体的に表現すると、個別的でもっとインパクトのあるものができるのだと思う。最後のまとめだけでは、確かに曖昧なものになってしまう。

【福岡委員】

これからこれをベースにしてまとめられていくと思うが、飯田市に住んでいる方、例えばごく若い方にも分かりやすい表現が必要。持続可能性における課題認識の部分は、じっくりよく読めば分かるが、すぐには落ちてこない。中学生や小学生でも分かるような文章、分かり

やすいような表現が良いと思う。

トランスフォーメーションについて、この言葉から共通のものが想像されるかどうかを議論する必要があると思う。それぞれが違うトランスフォーメーションを想像して、意味が違ってしまおうと市としてまとまった方向性にならなくなってしまう。

方向性の順番は、大切な考え方で示されている順とし、社会経済を逆にしても良いと思うのと、地産地消とする地消地産とするかの言葉遣いについて検討いただければと思う。

【石神委員】

大きなビジョンでは、分かりやすさは非常に大事だと思う。みんなに伝わるっていう部分は、いくら立派なものを作っても伝わらないのでは意味がない。

このイメージの4つは、ある意味で非常に上手くできている。並べ方について、縦軸と横軸で考えて、縦軸は仕事に対して暮らし。横軸は、人々に対して自然。それぞれを掘り下げるととても飯田らしさが出てくるような感じがする。

東京では、「仕事」が多くあるが、「暮らし」についてはクエスチョンが付く。「人々」は人と人のつながりである「結」というのが飯田の特徴である。このことは大都会とはだいぶ違う。「自然」も同じ。軸で「仕事」「生活」「人々」「自然」として整理されると非常にインパクトが出てくる。これをあえて言葉にすると、仕事は「つくる」、暮らしは「つむぐ」、人々は「つながる」、自然は「つなぐ」で4つの「つ」のように工夫してうまくアピールできる。工夫次第でみんなが分かりやすくできると思う。

「人々」の「つながる」について、「結」というものがどのような構造でつながるのかを考えてみると、飯田には非常に強い「竜」がいる。「竜」をみんな間接的に信頼しているから、お互いに信頼関係ができる。つまり、直接的な信頼関係が「結」だとすれば、「竜」を媒介にした間接的な信頼関係が生じるという「つながり」。飯田では、そういうものをいろんな形で展開できると思う。そういう意味では、これをベースに飯田版SDGsを作っていくと、非常に特徴的でありアピールできる。

【永井委員】

「結い」が広がるについて、公民館活動、組合活動などの部分は、飯田の特徴だと思う。唯一本当に他の都市や都会と比べた時に絶対出て来ないところだと思うが、「結い」が広がるという表現は、楽観的すぎるのではないかと思う。少子高齢化で、増えていく年寄りを少ない人数で支えている状態であり、人は減っていき維持していくのも大変な状況である。「つながり」は、防災や地域のことは大事にしていきたい視点だと思うが、簡単に「結い」が広がると言ってもどうすれば広がるのか。一番大変なところなのではないかと思う。

【小林委員】

福澤さんが言っていた「まとめる」「単純に」というのは良いと思う。確かにワークショップをまとめるのは大変な作業だと思う。私自身も地区で観光資源をどう生かしていけばいいかのワークショップを行った。結論を出すものではないが、まとめる人は大変だと感じながら今後を楽しみにしている。

竜丘の基本構想は10年程前に作られたもので、見直しをしようと思っているところ。今回のことを参考にさせてもらいたい。いろいろな意見があり、それらをどうしても取り上げたいと思うと、言葉がたくさんある。もう少し単純にすることが分かりやすい。小学生、中学生でも分かりやすいとりまとめが良いと思う。

【今井委員】

このまとめは、皆さんのアイデアが集結した価値のあるワード、要素であり、意味があると思う。それぞれ1個1個を追求していくセクション、アウトプット、活動するところが出来てくれば、淡々とやっていくことでまちが盛り上がってくる。このまとめはこれで良いと思うが、やはり抽象的過ぎて、表現するときにこれを全部記憶に留められない。飯田はどんなまちかという説明ができない。数年来から一言二言で表現できる「飯田らしさ」は何かと言われてきている。ただ、なかなかワードが出てこなくて数年ずるずる来てしまっている。今回「結」という言葉もあり、このまとまってきた要素を、本当にワンフレーズでみんなが口ずさむ、地域内外においても「飯田らしさ」を言えるフレーズを1つ作り、それが牽引して、この4つをそれぞれの部署で盛り上げていくのが良いというスタンスである。この要素にも意味があるし、ただそれを1人歩きさせて、どんどん地域の中で醸成していくためには、やはり簡単に伝わるフレーズがどうしても必要だと思う。そんな中で「結」は、何か飯田に繋がる部分かなと感じた。

【牧島委員】

上手にまとめていただいたと思う。私達の言ったことを上手にまとめていただいている。その上で、やはり抽象的にならざるを得ないため、具体性がなく、「飯田らしさ」「地域らしさ」が抜け落ちてしまう。これを製本して本案としてまとめていく段階では、具体性を持って「飯田らしさ」を出せるようなものにしていくのだと想像している。そうは言っても、そうそう全てやることは難しい。どんどん高齢化し人口が減っている状況で、何もかも全部やっていくことが難しいとすれば、こういう1つの方向性においてここが「柱」だということが分かると良い。

こどもでも分かる、みんなが言うということがとても大事だと思う。「結」「ムトス」などの言葉が出ていたが、飯田市民全員が飯田ってこういう方向に進んでいる、こういう方向で行こうよと言えるものがない。どのまちでもないのだろうと思うが、これからはそういうものがあると良いなと思う。

【遠山委員】

私も皆さんがおっしゃられたことと同じ意見です。事務局が、私達が話したことをどれも取りこぼさないようにまとめていただいたという印象を受けた。その中で、「飯田らしさ」を、キーワードなのか「柱」という形なのか、どこかこの資料やその次に繋がる資料に生かさせていけると良い。

分かりやすさは非常に重要だと思う。これがまちづくりの方向性の1つになるとすると、どの住民の方が見ても、ぱっと見たときにある程度方向性が見える見やすさの部分も含めて、分かりやすく作り上げていくのが良いと思う。

【石神委員】

皆様の話聞いていて、示し方は「結」を中心にし、人々と自然、あるいは仕事と暮らしの繋がりなどいろいろな繋がりで、「結」という字と「田」という字を書いてみた。表示の仕方でも、結構分かりやすくなるのかなと思う。

【佐々木委員】

前期に対して後期だと思う。前期のときに目標にしていたのは、リニアができるのを2027年に設定し、それに向けた準備という話でやってきて、リニアを先立ててキャッチフレーズもリニアという言葉を入れて作ったと思っている。今回は、リニアがいつになるかははっきりと示されてないため、後半の議論になってくるとは思うが、そのリニアが抜け落ちていないかと感じる。持続可能性はもちろん大事だが、前期であれだけ掲げていたのに、後期で環境変化を受けたことに対してリニアが抜けてしまっている。佐藤市長が、リニアに寄りかからない地域づくりが当面求められるということを、この会議で話されていた。伸びても伸びなくても、リニアが来る前提で寄りかからない姿勢をシビックプライドなどと掛け合わせて、後期計画では発信すべきではないのかと思う。

【澤柳企画課長】

リニアの視点が抜け落ちているということについて、今回は、それぞれのグループワークの中で出していただいたキーワードを整理しまとめたものになる。そのため、今回のところまでについては、こちらからリニアを取り込むなどはしていない内容となっている。

この後、基本目標など、まちづくりの方向性においてどのようなことを、具体的な目標に掲げてやっていくかという中では、当然リニアの視点も事務局としては入れさせていただく考えである。

【竹内委員】

私達のグループで話をしていた「とがった部分」は、どうしても消えざるを得ないのだろうと最初に見て思った。どうしても総花的になりやすいと感じた。ただ、今の段階では、皆さんの発言をまとめた部分が出てきているということだと思うため、これからどのように分かりやすくしていくのか。キーフレーズなど一言で言い表せられれば一番良いと思うが、なかなか一言言い表せられない。そういったジレンマはあるが、こどもの目線でも、同じ方向に進んでいくために議論をしていかなければいけないと思う。

【矢澤委員】

内容については、共感するところがすごく多かった。私は小学2年生の息子がいる。皆さんがこどもにも伝わるように分かりやすくという意見が多かったので、今後どのように息子にこの内容が届くかが楽しみだと思った。

【前島委員】

「結」という言葉はなかなか難しい。遠山地区における「結」は、1人でできないけどまわりの人が手伝ってくれればできる。また隣の人も、またその隣の人もといった順番に回っていくことで全てが出来る。ただし、下手をするとそれが逆に楽をしようという考え方になってしまって、返って苦労している人がより苦労してしまうなんてことになってしまう。何でも出なければいけないなど、逆に全部つらくなってしまう。人口が少なくなっているが、そんな気がするので、私の地域では良いのか悪いのか分からない。

【石神委員】

非常にシビアな話だと思う。「結」と言っても新しい「結田」＝「飯田」として、人と自然を繋ぐ、今と未来を繋ぐ、新たないろいろなものを「繋ぐ」という意味で、そういう哲学が含まれるのだと思う。哲学と歴史もこの言葉に含まれてくる。そう考えると飯田というのは材料がたくさんあると思う。水引も絹も繋がっている。新しい意味合いで考えると展開ができると思う。

【三浦委員長】

「分かりやすい」といったところ。「飯田市らしさ」といったところ。誰にでも分かる「示し方」。石神委員からは、具体的な示し方の案を提示していただいた。一目見て、こどもからお年寄りまでが誰もがその方針・柱というものが分かる。まずはそういったものを作ってみたらどうかといったところの意見を多くいただいたと思う。

分かりやすく、またそれが伝わっていくということ。ただの紙に書かれたものではなく市民に浸透した、そういった1つの方針になろうかと思う。検討していく1つの材料にしていいただければと思う。

(2) いいだ未来デザイン2028後期計画の計画期間のあり方について

【小林委員】

4年は短すぎるし、10年先ではいけないと思うで、6年ぐらいが適当で2030年かなと個人的には思っている。

【前島委員】

リニア開通までの我慢の時期だと思っている。この我慢の時期が、10年先までと考えると個人としては4年6年何とも言えない。

【今井委員】

リアルに考えると、計画は計画している間、別に何も生まない。計画している間に行政が何かを参考にしてアウトプットできればそれはそれで意味があると思うが、リニアやまちづくりなど計画ができてそこからアウトプットしてようやく積み重なってくるものだと思う。私も焼肉口ツクフェスという有志企画をやり、リニアが開通したときに僕らも何か交流を高めたり、自分自身を研鑽する機会を作ったり、付加価値を上げていく努力をしたり、いろんな自分の成長のためにもと思いつつ、集客も増やしつつやっている。いろいろな人の広がりができて、いろいろな人の繋がりが増えてくるのは1年単位で簡単に醸成されるものではなく、やっぱり10年やってようやくここまで来た。目に見えた形にするまでにも、計画の先にどれだけアクションを起こすかが本当の成果として現れると思う。期間は4年で決まれば4年の中で伝えていきたいと思うが、本当にまちをつくっていくのであれば、4年ではなくてもう1年。短く計画を立ててアウトプットするべきだというのが率直な感想である。

【牧島委員】

2028は、リニアありきの期間だったと思う。2028に意味を持たないので、意味のある年で目標を達成したいということであるとする、2030年というSDGsのゴールの年は妥当であると思う。

【佐々木委員】

次期総合計画の段階で、リニア開業を迎えたいというのが一番大きいのかなと思う。そのときに、次期総合計画を練る段階で仕切りなおして新しい目標をしっかりと立てていくと思う。次期総合計画でリニア開業を迎える最良の方法を探るといいと思う。

【永井委員】

今までも4年というスパンでやってきた。2年経過したところで見直しをして、達成したところ、足りない部分を補って次の2年間で過ごすというようなスパンで来ていた。4年で良いのではないと思う。SDGsも1つのその先にあるゴールということなので、またその次の段階の計画における中期に入るため、私は4年でいいと思う。リニアに関しては、あんまり期待していないので、そんな変わることが期待できないのであまり考えなくてもいいのではないかなと思う。粛々と迎えるという形で良い。

【増田委員】

今回グループワークをし、方向性を出してきたが、多分3年後、5年後になればまた違う視点でこれが生まれてくる。時の流れは、人それぞれの感覚だと思うが、個人の感覚としては、3年から4年で変わるのではないかなと思う。4年が妥当ではないか。正直、今後ものすごく変わってくると思っていて、これまでの10年とこの後の10年の変化は、多分倍速、3倍速になってくる。土台となるまちづくりの方向性が、違うものがどんどん生まれてきて、思ってもみなかったようなことが起こってくる可能性があるとするれば、3年は短いかもしれないが4年は妥当だと個人的に思う。

【三浦委員】

2028年の後期ということは、前期からやってきて、2028年が終了だということ。ここできちんと見直しをして、新たにこれからの計画を立てるべきではないかなと思う。4年が一番いいのではないかなと思う。SDGsはSDGsでしっかりとやるべきこと。SDGsだから伸ばそうという考えはない。デザインしたのは2028であり、今まで前期から後期2028年までをしっかりとやった反省のもとに、また新しい計画を作っていく。リニアについてはまた水がなくなってしまったという話が出ているため、静岡がどうなるか一切わからない状態になっている。4年後IT等もすごく進んでいると思う。2028年できちんと見直しをした方がいいと思う。

【福岡委員】

計画期間はどれぐらいが適当かは、分からないが、私は2028年の予定通り4年が妥当であろうと思う。飯田市で都市計画を策定したときは、おそらくこのSDGsに合わせた形で計画を策定したわけではないため、少なくともこのSDGsは意識する必要はないと思う。リニアは非常に残念だったが、リニアの頃にはさらに良いもの作っていくという意味で、コンスタントに計画通り予定通り見直すことがいいと思う。当然都市計画の中でも数値目標を設定するので、同じタイムスパンの中で検証できる形が良いと思う。

【荒井委員】

計画は、理念的で長期的なものと短期的で実践的なものが階層構造になっているものと思う。未来デザインはどっちなのかが肝なのかなと思う。例えば未来デザインが切れても、次期総合計画で中長期的なイメージができるのであれば、予定通りで良いが、そういったものがなくなってしまうのであれば、そこに代替するような計画を立てて4年ということもできる。まったくなくなってしまうのであれば、細々とリニアが通るまちとして長期的な計画とすることもできると思う。

【矢澤委員】

4年で良いと思う。具体的になぜかというとながしいが、計画を先延ばして良いことはないと思う。個人的に思う。今井委員が言っていた計画しているだけでは何も変わらないということに共感し、リニアに関してもリニアが延びてしまったことはすごく残念だが、リニアが来る以前に全然魅力がある、ポテンシャルがあると思っている。そこをもっと肉厚にして、そこにリニアが来ちゃったくらい胸を張って言えるようなまちづくりがされていることが一番良いと思う。

【福澤委員】

私も4年で考えています。民間では期間をずらすことはステークホルダーに対して相当なネガティブインパクトがないとやらないと考えている。リニアがそれほどのネガティブインパクトかという、皆さんの話を聞いていると結構安心感みたいところがあり、そうではないと感じる。そういう意味において、当初段階で2028と決めたものに関しては、やっぱり一旦区切るべきだと思う。これから先が見えないという状況下においては、これを延伸するべきでは全くないと考えている。

【竹内委員】

最初に話を伺ったときは6年の考えた方がいいかなと思った。それは1つにリニアが伸びてしまったこと。ただ、期間として6年は計画として結構長い。中期計画ではだいたい3年であり、4年という期間は1つかなという感覚がある。2028と掲げて12年やってきたという事もある。その継続性という意味においても、2030にするとした時の説明の部分もあるかと思うと、人口展望等当然見直さなければいけないが、2028はそのままいくという形の方がいいのではないかな。

リニア開通の見通しはまだないが、開通の見通しが出てきたところでは、また見直しの議論ができればいいのではないかなと思う。

【遠山委員】

4年というものが私の意見となる。皆さんの意見とほぼ同じになるが、これまで飯田市が前期4年中期4年でこれから後期4年の12年間というスパンで考えてきた中で、目標であるリニアが延期になってしまったことは非常に残念だが、ここでブレる必要性はあまりないと感じている。先が見えない状況において、リニアがいつ開通するかを議論しても結果が出るわけではない。そうであれば、ブレずに4年4年4年という形できちんと計画の見直しをやっていけば良いと思う。

SDGsに関しても、2030年という目安はあるが、それはSDGsの要素を含めるという中で別に良いと思う。計画全体の4年間をずらす必要性はないと思う。

【石神委員】

期間というその概念について、ビジョンとかデザインは別に期間はなく、市の憲法のようなものだと考えると、ずっとそういうまちにしていこうとするもの。別に4年間だからそうなるわけではなく、ずっと続くものである。その中で、細かくは1年1年のゴールは必ずある。これが行政計画であるとすれば、財政の問題もあり、もちろん行政の責任の問題みたいなものもある。そうだとすると、そんなに長い10年間のような期間は考えられない。

今は、非常に加速度的な変化がある時代になっていて、国際情勢ももちろんだが、情報の世界や経済の世界、過去の20年が今の1年ぐらいの感じになっている。そういう意味では、例えば3年はものすごく長いと思う。予測ができず、何が起こるか分からない。災害なども当然ある。そんなに長い必要はない。ビジョン、1つの向きは長く持っている必要がある。

今までのゴール考え方は最終形を考える。最終形に向けて徐々にやっていくと何年でできるかというのが、これまでのプランニングの考え。この場合、例えば10年先って考えると、10年先を考えているのは10年前の知識になってしまう。その間に起こる様々な環境変化、経済変化、技術変化、それから人々の嗜好の変化は予測が難しい。何が起こるか分からない。つまり、環境変化を常にこの計画に取り込んでいくという時間が計画の中に必要になる。時間を含ませる計画が必要になる。今までの計画にはその概念がない。

1つの反省として、ビジョン、デザインをしっかり決める。そのあとは1年1年あるいは3年とか4年とかできっちりやっていく。漸進的にやっていく。良くなければすぐ見直してローリングする。常にそういう形で見直していくプロセスがある。

最終形を考えて期間を設定すると、その間は未完成。未完成というのは不具合である。そうではなく、どの時点を取っても完成形。1年後3年後ごとの完成形という、徐々に組み立てていくやり方が良いと思う。どこに向かうか分からなくならないようビジョンをしっかり持って積み上げていく、これが1つの計画期間の考え方だと思う。まず、ビジョンは永遠のものと言うと語弊があるが、そういう類のもの。歴史と哲学が入ってくる。一方で、そのゴールは、行政の期間や財政の見通しなどから考えて、3年から5年ぐらいが良いのかなと思う。

2030年は確かに分かりやすい。だが、ふと考えてみると、仮に4年後の2028年は、実は

令和10年である。そういう意味では丸まった数字で分かりやすい。2030は分かりやすいが、令和10年も分かりやすい。だとすると4年が適当かなと思う。

【中田委員】

私も皆さんが言われているように、2028年の4年で良いのかなと思う。4年間だけでもすごい変化があった。それに対応するためには、短めの方が実践していくには良いのではないかなと思う。SDGsの目標に合わせることも、確かに2030は美しい。ただ逆に2年あるため、2030年までにできていないことを、もう一度整理できる。その2年間で、2030年までにやれることをやっていくことができると思った。

ビジョンはあった方が良いという話で言うと、どうしても1年2年という計画期間のスパンが短くなってしまうので、もう少し自分が生きていないぐらい先の100年後に、飯田市はどうなっていてほしい、今のこどもがどうなって欲しいかを、1人1人がそういう妄想のようなものを持てると良い。飯田市のみんなが持っていて、そういうことの中に4年の計画があると良いと思った。

私の仕事の中で、各地の郷土料理をまとめたりすることがある。地域の方に聞いたときに、100年後のこどもに残したいものは何ですかと聞くと絞り込まれてきたりする。100品あったものが、40品になってくる。別にそれが具体的なものではないが、少し先を見られるような市民がたくさんいると良いなと感じた。

【三浦委員】

なんとも言えないという意見もいただいた。2030年、人の繋がり広がりはずぐできるものではないからという意見もいただいた。一番多かった意見は、4年間ということで2028年の意見をいただいたと思う。

意見を3つに絞ると、変化が著しい現状にあること、10年前に考えたことは10年前の思考であること、そういった先が見えない中で、やはり長くするのではなく4年が適当だろうという意見。継続性として、12年の計画であり4年4年4年というタイムスパンで来ている。きちんと最終年度2028年に見直しをするという、継続性を持ったタイムスパンで計画を見て最後きちんと見直しをして次に繋げることが大切ではないかという意見。SDGsを今ここで特にそれをメインとして位置づけする必要はないのではないかという意見。このような3つの意見をいただき、2028年までの4年間で適当であろうという意見が一番多かったと思う。

意見をいただく中には、100年後の妄想が大事だという意見もあり、リニアが来ないという状況があるが、それがネガティブといったことで全くなく、魅力ある飯田市にリニアが来ちゃったというような飯田市の作り方という意見もいただき、意見交換が出来たと思う。

委員の意見として4年間で2028年までという意見が一番多かったことを、理由も含めて事務局に伝え、これからどのように期間を決めていくかについて、委ねたいと思う。

これまでのいいだ未来デザイン会議におけるまちづくりの方向性に関する意見交換のまとめ(たたき台)

ー 後期計画におけるまちづくりの方向性(基本目標を策定する際に考慮すべき視点)の策定に向けての論点整理 ー

第3回会議資料

後期計画策定に向けた基本的な考え方

いいだ未来デザイン2028後期計画は、コロナ禍でダメージを受けた地域社会経済のより良い再興に向け、SDGsの考え方に基づく環境を基軸としたまちづくり等により、自立的で持続可能な地域を創造するとともに、魅力を高め、リニア時代を切り開く、新たな礎を築く計画を策定します。

SDGsの考え方をベースに「持続可能な地域」の視点からまちづくりの方向性について意見交換

持続可能性
における
課題認識
(コミットする
課題から)

■人口減少及び人口構造の急激な変化の緩和と適応、人口減少・若者が活躍する

- 地域に影響が大きい人口減少・人口構造の「急激な変化の緩和」と同時に、縮小する経済社会、「ヒト」・「モノ」・「カネ」の経営の3要素を確保することが難しい時代背景を前提とした閉塞感を打破するための変革(Transformation)など「急激な変化への適応」の必要性の認識

■暮らし豊かで元気なまち飯田、誇り・プライド・シビックプライド

- 人と人のつながり、歴史や文化を含めて地域に存する資源や財産、環境を守り、シビックプライドとして、次世代につないでいくことの必要性の認識
- 多様な価値観を包摂する新しい連帯のあり方や暮らしを守る社会保障のあり方を模索するなど、共生社会の実現を通じて安定的な礎を築き、未来へつないでいくことの必要性の認識

大切な
考え方

- ① 下記4つの方向性(Biosphere:環境・Society:社会・Economy:経済・Partnership:パートナーシップ)のバランス
- ② 関係する課題の同時解決
- ③ デジタル技術の活用などによる変革(トランスフォーメーション)

まちづくり
の方向性
イメージ

(4つの要素
から)

方向性
1

守る
未来へ
つなぐ
Biosphere

- 地域の自然資本(森林等)を生かす・守る
- 次世代(子どもや孫)につなげる
- エネルギーの地産地消
- メリハリのある土地利用

こどもやまごの未来を考えるまち / 再生可能エネルギー / エネルギー産業 / りんごの産地であり続ける / まちの集約 / コンパクト / 土地・農地のメリハリ / ゼロカーボン / 木材の活用 / 森林資源の利活用 / 手つかずの自然 / 余剰分で稼ぐ / 水源地の確保 / 地産地消

方向性
3

ともに
暮らす
安心
Society

- 誰一人取り残さない共生社会
- 安心して子育てできる、教育レベルの向上
- 暮らしやすい
- ダイバーシティ

医療 / 学生の活躍 / 魅力ある学校 / 教育の充実 / 教育レベルの向上 / 人材育成 / 子どもも大人も / こどもから高齢者まで / ダイバーシティ / デジタル / 保育園 / 子育て休暇 / 子育て支援の充実 / 子どもの声が聞こえるまち / 社会福祉の充実

方向性
2

働く
活躍する
Economy

- 誰もが安心や働きがいを感じられる地域経済
- 持続的に強く発展する地域経済
- 自由で多様な働き方と豊かさの実感
- 働きながら学べる、人材育成

起業 / 女性も / 障がいのある人も / 外国籍の人も / 人的投資 / 省人化 / デジタル化 / IT化 / 地域の企業の魅力発信 / 観光 / 地域の魅力発信 / また来たくなるまち / 地域の財産の活用 / 特産品 / 儲かる農業 / 仕事 / 交流 / 学び / やりがい / 空き家・空き店舗の活用 / アフター5 / 地元の産業・企業 / ジビエ / 多様な果物 / 地域ブランド / 地産地消 / 子育て休暇 / いきいきと働き安心して生活ができる

方向性
4

人と人が
つながる
Partnership

- 「結い」が広がる
- 地域の誇り・文化・伝統芸能・シビックプライド
- 安全・安心な暮らし、助け合える
- 開かれた地域

持続可能な自治会・公民館活動 / 地域のコミュニケーション / 地に足のついた(都会化しない) / 町村連携強化 / 地域を広げる / 伝統文化の継承 / 祭りの伝承 / 文化(伝統文化) / 食文化 / 歴史 / 災害に強い / 安全(防災) / 安全・安心な生活基盤 / 助け合える / 二拠点居住 / 関わる人を増やす / いきいきと働き安心して生活ができる / 帰ってきたくなるまち

後期計画の計画期間のあり方について(Discussion Paper)

論 点

- ・市が計画期間を定めるに際して参考とするため、計画期間はどの程度が適切と考えるかについて、ご意見をいただきたい。
- ・具体的には、以下の事項を考慮していただき、計画期間の設定として、4年間、6年間、その他の期間設定が適当と考えるかについてご意見をお願いしたい。

参考視点① 後期計画のまちづくりの方向性(案)

- ・これまでの意見交換の経過
- ・SDGs・環境面：Mile Stoneとしての2030年

参考視点② リニア中央新幹線の開通時期の不透明化

- ・静岡県の開発許認可から最低でも10年間の期間が必要
- ・開通時期が明確になった際の基本構想・基本計画の在り方（次期総合計画の策定）

参考視点③ 先が見えない時代の行政課題への対応のあり方

- ・いいだ未来デザイン2028の考え方
- ・長期的ビジョンと短期的戦略(求められる環境変化への柔軟な対応)
- ・予測不可能な社会経済の環境変化や価値変容に適応できるPDCAサイクルの強み